

---

## 2018 年度女性医師・研究者支援センター調査 調査報告

---

### 調査の概要

#### 1. 調査要綱

##### 1.1. 調査の目的

職員の就労状況、育児・介護の状況、仕事への満足度等を把握し職場環境整備策の立案に活かすこと、ならびに本学独自の基礎資料を作成することを目的とする。

##### 1.2. 調査の対象

調査の対象は、帝京大学板橋キャンパス、八王子キャンパス、宇都宮キャンパス、福岡キャンパス、霞ヶ関キャンパスに所属する教員および医学部附属病院、医学部附属溝口病院、ちば総合医療センターの附属3病院に所属する職員である。

##### 1.3. 調査期間と方法

2018年12月から2019年1月にかけてWEBアンケート形式にて実施した。

##### 1.4. 回答数

本学職員を対象とし、610件（うち有効回答数598件）の回答が得られた。

##### 1.5. 調査に関する秘密の保持

本調査は、職場環境整備の一環として実施された。プライバシーの保護を考慮し、無記名での回答とした。解析は個人単位では行わず、回答の有無や回答内容によって帝京大学との雇用に何ら影響のないことを事前に回答者に告知した上で、守秘義務を遵守し調査を行った。

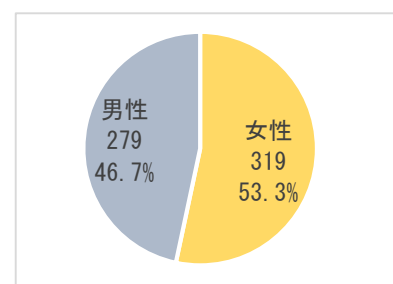
## 結果の概要

### 1. 回答者の属性について

#### ①回答者の性別 (n=598)

回答が得られた 598 名のうち、319 名 (53.3%) が女性、

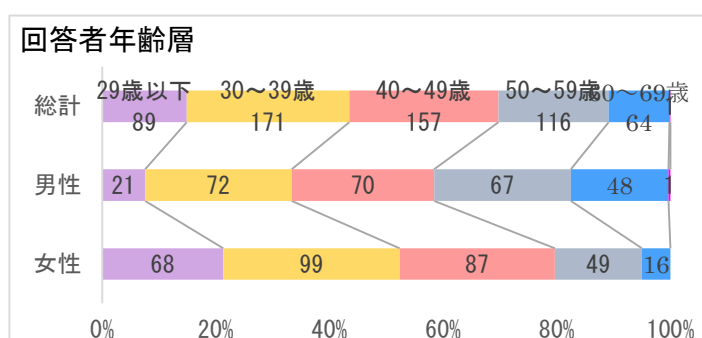
279 名 (46.7%) が男性であった。



#### ②回答者の年齢層 (n=598)

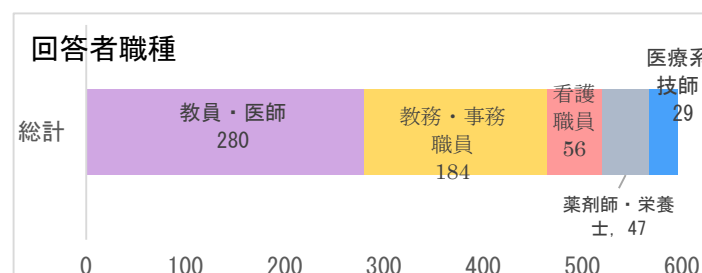
回答者の年齢分布は右図の通りである。

性別で見ると女性は多い順に 30 代、40 代、20 代となるが、男性は 30 代、40 代、50 代、60 代と続き、29 歳以下の男性の数が非常に少ないことが分かった。



#### ③回答者の職種 (n=598)

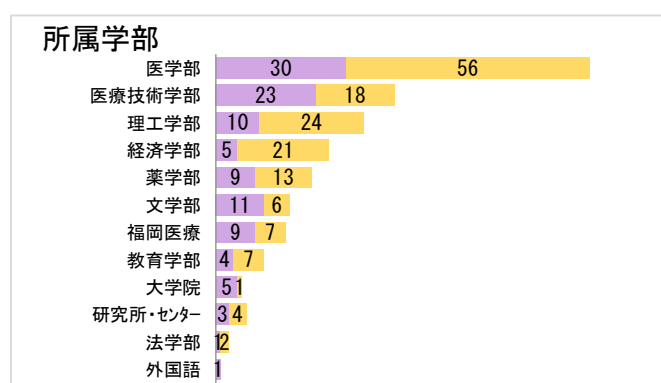
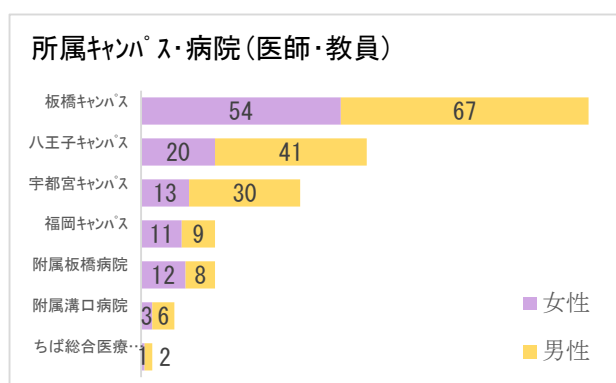
回答者の職種を尋ねた項目では、多い順に「教員・医師」「教務・事務職員、看護職員、薬剤師・栄養士、医療系技師の順となった。

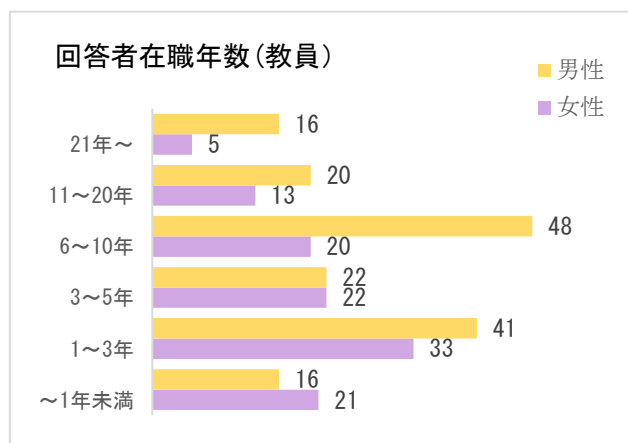
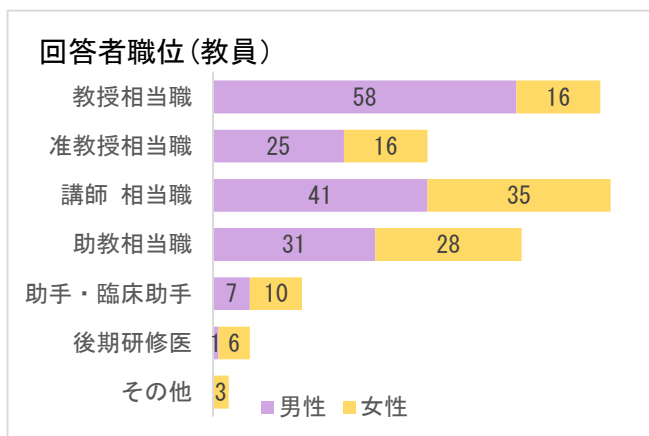


#### ④回答者の所属キャンパスについて

##### a. 教員・医師

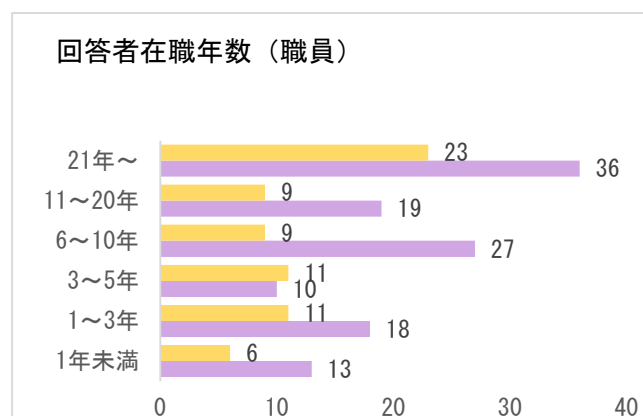
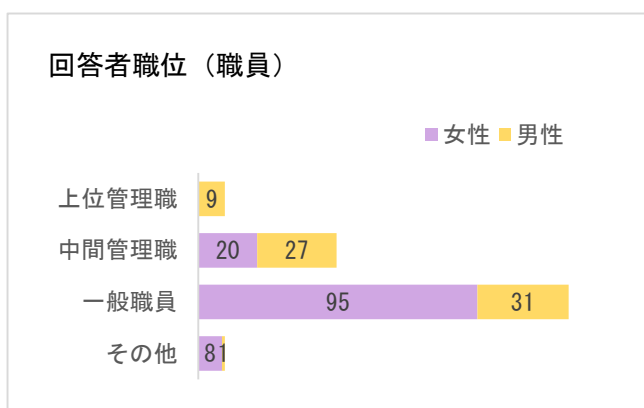
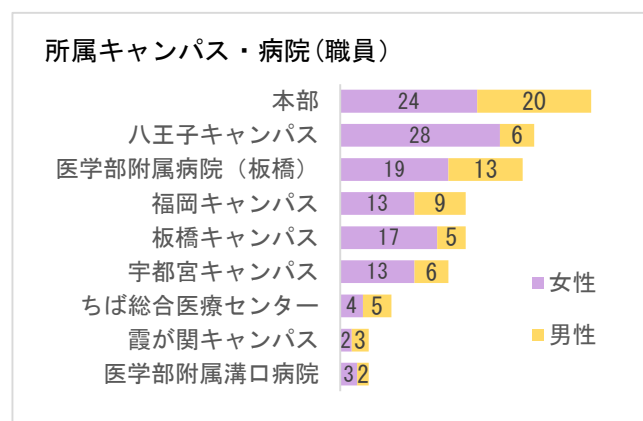
前述③の質問で教員・医師と回答した者に対し、所属キャンパスを尋ねた質問では、板橋キャンパス所属と回答した者が最も多かった。次いで八王子キャンパス、宇都宮キャンパス、福岡キャンパス、附属病院の順に続いた。また、所属学部で見ると医学部所属教員からの回答が最も多く、次いで医療技術学部、理工学部、経済学部、薬学部の順に続いた。さらに教員である回答者の職位を尋ねた設問では、多い順に講師、教授、助教、准教授、助手の順に続いた。また、本学における在職年数を尋ねた設問で、男性の場合は回答数が多い順に 6-10 年、1-3 年、3-5 年、11-20 年、21 年以上と続くのに対し、女性の在職期間は回答が多い順に 1-3 年、3-5 年、1 年未満、6-10 年となった。





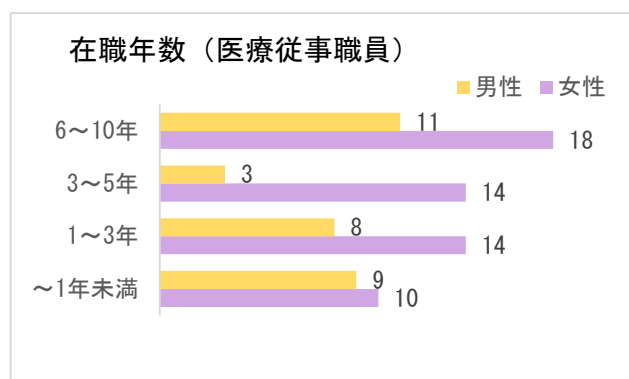
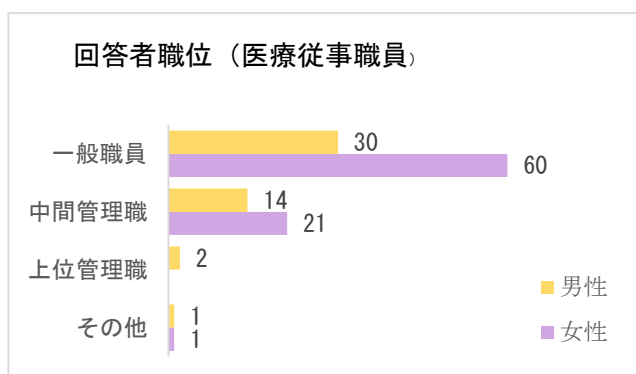
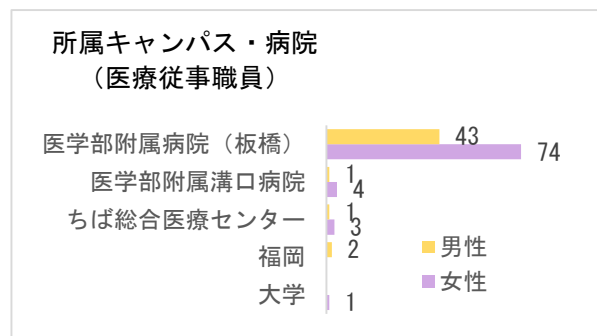
## b. 事務職員

所属するキャンパス・病院について尋ねた設問では、多いものから順に本部（板橋）、八王子キャンパス、医学部附属病院と続いた。職位について尋ねた設問では、一般職員、中間管理職、上位管理職の順に続いた。また、在職年数について尋ねた設問については、男女ともに21年以上と回答した者が最も多かった。女性の場合は次いで6-10年、11-20年と続くのに対し、男性職員は1-3年、3-5年の順に続いた。



### C. 医療従事職員

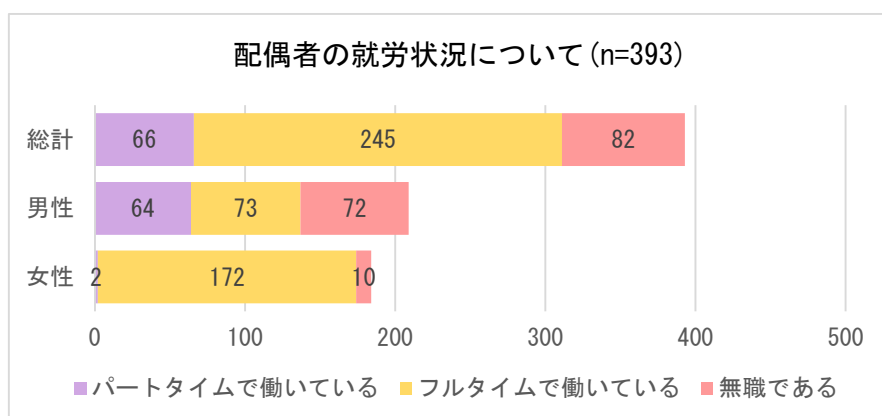
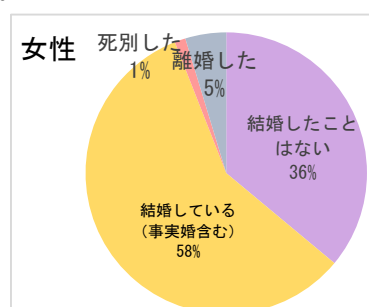
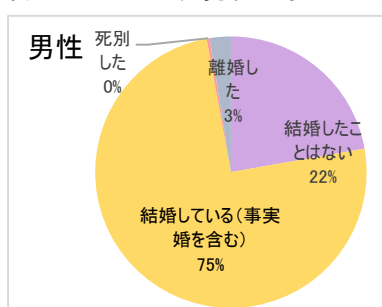
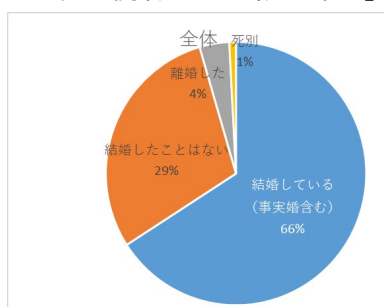
同様に、前述③の設問に医療従事者であると回答した者の所属について尋ねた設問では、その多くが附属病院(板橋)であった。また、職位について尋ねた設問では、多いものから順に一般職員、中間管理職、上位管理職となった。また、在職年数についての設問では、女性は多いものから順に6-10年、3-5年、1-3年、1年未満、男性は6-10年、1年未満、1-3年、3-5年の順となっている。



### 2. 回答者の家庭の状況について

#### ①結婚と子どもの有無について (n=598)

問15「あなたは結婚していますか」の問に対し、男性75%、女性58%が「結婚している(事実婚を含む)」と回答した。「結婚している」と回答した者について、配偶者の状況を尋ねた問17「配偶者の状況をお教えてください」に対しては、「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」と答えたものが多かったが、配偶者が「無職である」と答えたものは、男性が多かった。

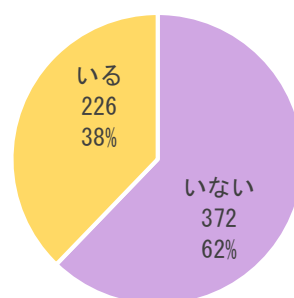


## ②18歳以下の子どもがいる回答者について

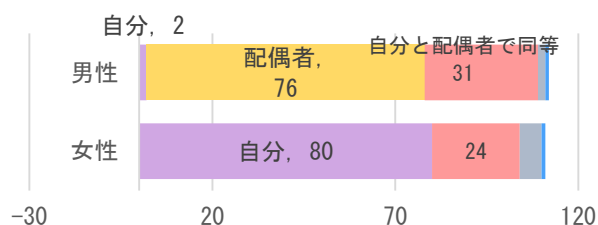
また現在18歳以下のお子さんがあると回答した者は、回答者の37.8%（226名）であった。これを受けて、家庭において18歳以下の子どもの世話をしているのは誰かについて尋ねたところ、男性の多くが「配偶者（妻）」、女性の多くが「自分」と回答しており、子育ての多くを女性（母親）が担う状況が伺える結果であったものの、男女ともに「自分と配偶者で同等」と回答した者も一定数いた。なお、子育て中の仕事の進み具合について聞いた質問では、「自分が主に子育てを担っている」「自分と配偶者で同等」と回答した人の進み具合が全体的に低い状況であったが、主な子育て者を「配偶者」と回答した人については、これまで以上に仕事が進んでいることを示す「100%以上」との回答が最も多かった。ただし、次いで「20%未満」とする回答が多く、主担当ではなくても子育てに関わることがある程度仕事の進み具合に影響をおよぼす可能性が示される結果となった。

なお、子育てと仕事を両立する上で困難を感じたことがあるかについて尋ねた設問では、男女ともに「ときどきある」「よくある」と回答が多い順に並んだ。

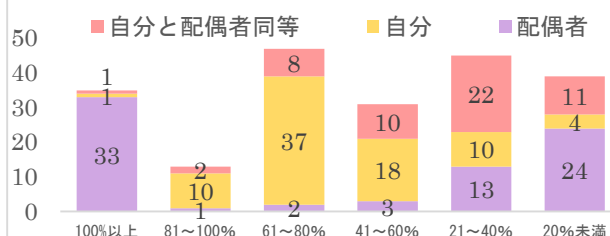
18歳以下のお子さんがいますか。 n=598



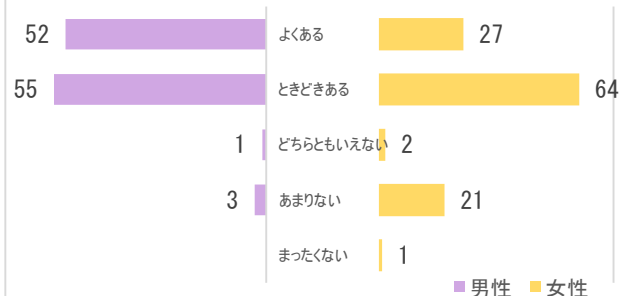
お子さんのお世話は主にだれが行なっていますか。 (n=226)



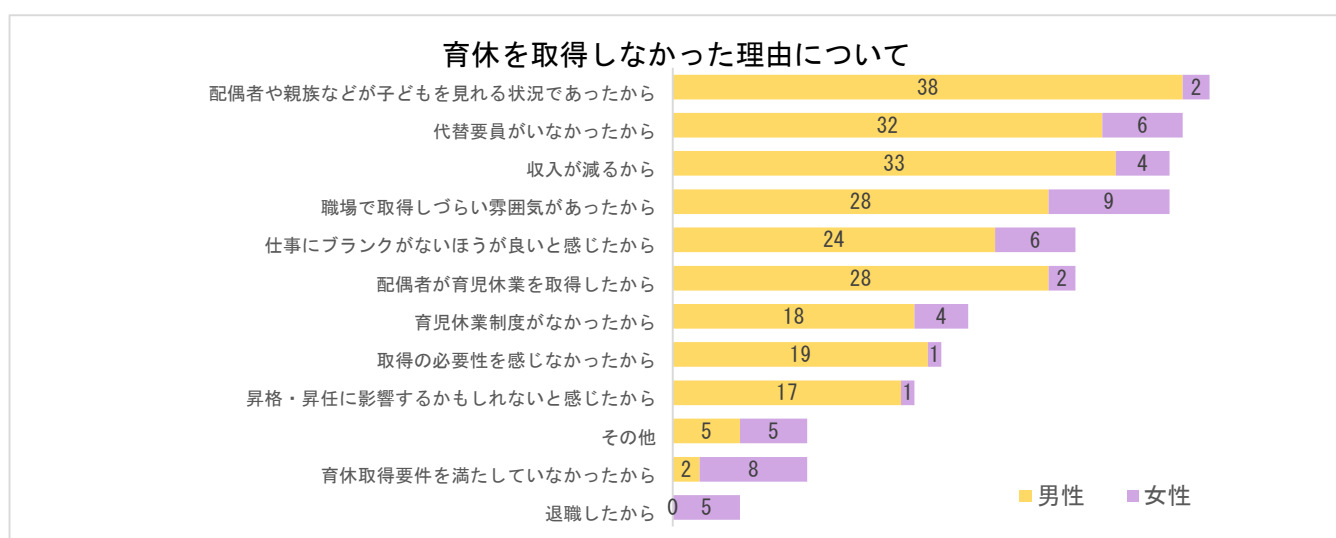
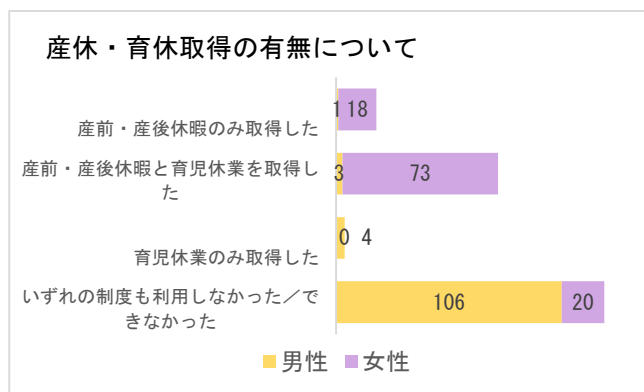
子育て主担当者別にみた仕事の進み具合



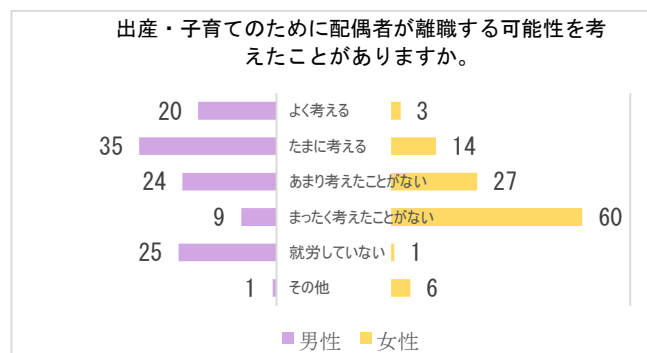
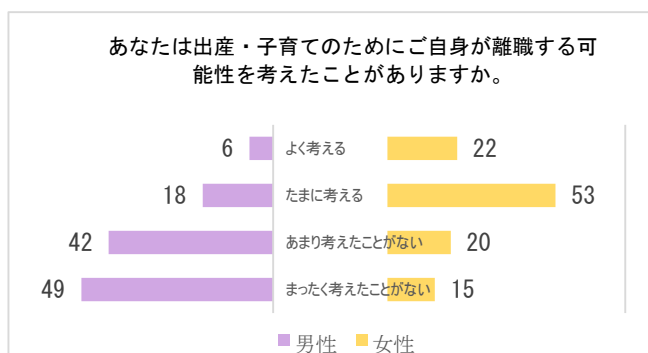
子育てと仕事を両立する上で困難を感じたことはありますか。



なお、産前・産後休暇および育児休業の取得有無を尋ねた設問では、男性の多くが「いずれの制度も利用しなかった／できなかった」と回答。その理由について尋ねた次の問に対しては多い順に「配偶者や親族が子どもを見れる状況であったから」「収入が減るから」「代替要員がいなかったから」「配偶者が育児休業を取得したから」「職場で取得しづらい雰囲気があったから」の順に続いており、男性の育休取得のハードルは依然高い状況にあることが伺える結果となった。



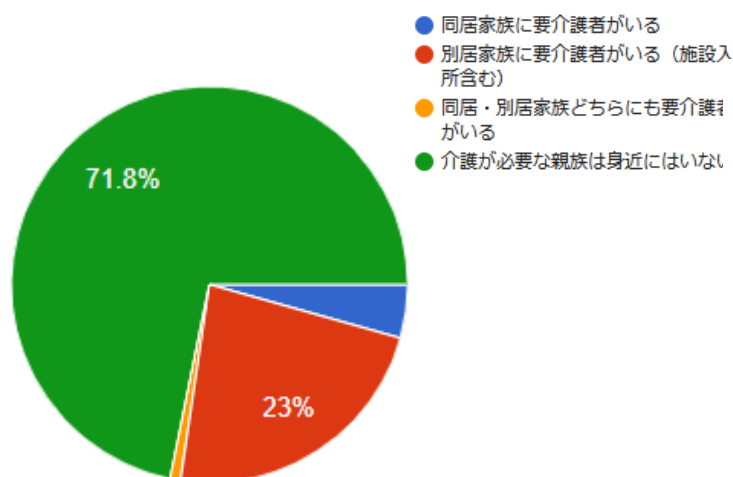
また、出産・子育てのために自身が離職する可能性を考えたことについて尋ねた質問では、女性の回答は「たまに考える」48.2%、「よく考える」20%と離職を意識したとの回答が約7割にのぼる一方、男性は「まったく考えたことがない」42.6%、「あまり考えたことがない」36.5%と離職を意識していない回答が8割近くとなっており、大きな違いがみられた。また、子育て期に配偶者が離職する可能性について尋ねた質問では、女性は「まったく考えたことがない」「あまり考えたことがない」「たまに考える」「よく考える」の順、男性は「たまに考える」「あまり考えたことがない」「配偶者が就労していない」の順となっており、ここでも違いがみられる結果となった。



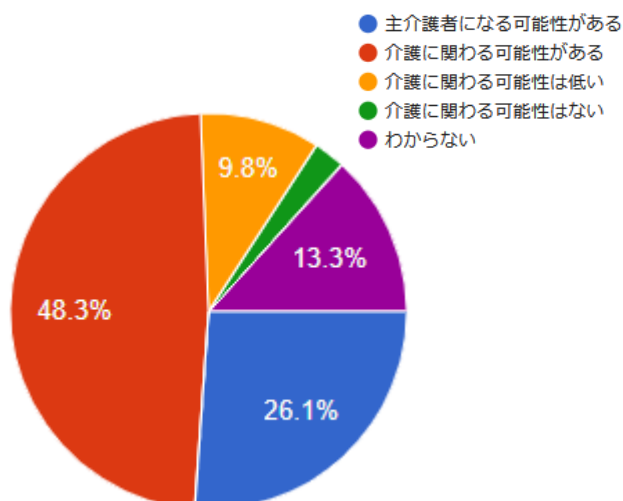
### ③介護について

介護が必要な家族・親族の有無についての問いに対しては、別居家族・同居問わず親族に介護者がいると回答した者は28%にのぼり、回答者の4人に1人に介護が必要な親族がいる状況であった。なお、現在介護が必要な家族は身近にはいないと回答した人に将来の介護の可能性について尋ねた質問では74.4%が「介護にかかわる可能性がある」と回答しており、介護はより身近な問題であることが明らかになった。なお、現在介護が必要な親族がいると回答した方に、各種介護サービスや手続きを誰が行なっているかについて尋ねた設問の回答は以下の通りであった。

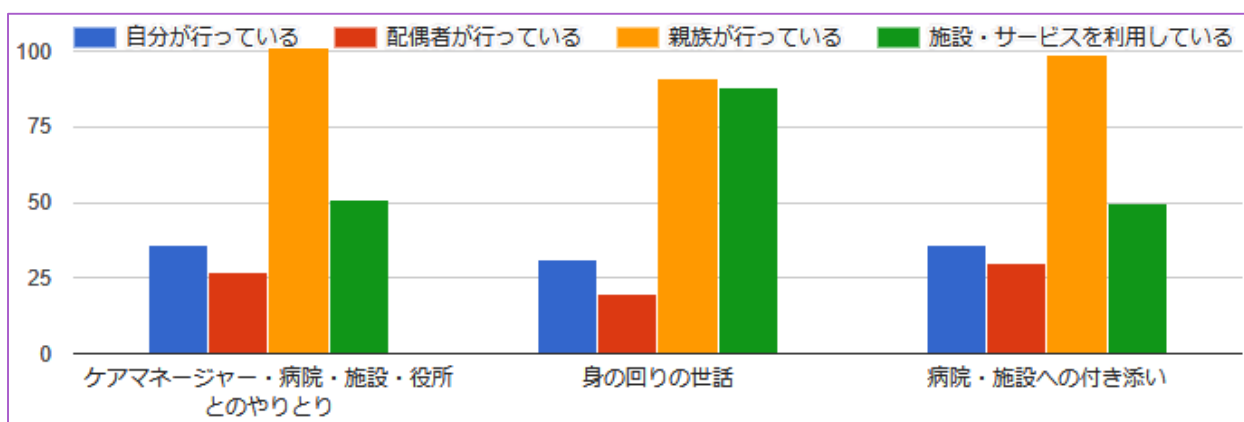
現在あなたのまわりに介護の必要なお親族はいらっしゃいますか。



将来的に介護にかかわる可能性はありますか。



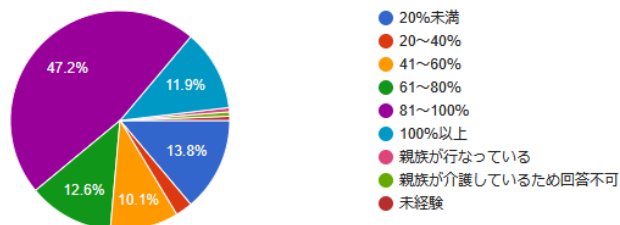
その方の介護はどなたが行なっていますか（複数選択可）



介護が必要な親族がいると回答した人を対象に仕事の進み具合について尋ねた設問では、81～100%との回答が最も多く48%であったが、中には20%未満と回答した人も14%いた。介護と仕事を両立する上で困難を感じることはあるかの問に対しては多いものから順に「ときどきある」「あまりない」「どちらともいえない」「よくある」「まったくない」の順であった。自分が主介護者としてかかわっているケースと、親族が介護を行っていたり施設を利用している場合では、困難の感じ方に差があるものと考えられる。また、介護のために自分が離職する可能性を考えたことがあるかについての質問について、全体では「あまり考えたことがない」と「ときどき考える」「まったく考えたことがない」「よく考える」の順となっているが、自分が主介護者であると回答した人に限定して見ると、「よく考える」「ときどき考える」という答えが多く、介護を担う比率が高い人ほど、両立への負担を感じる結果となった。

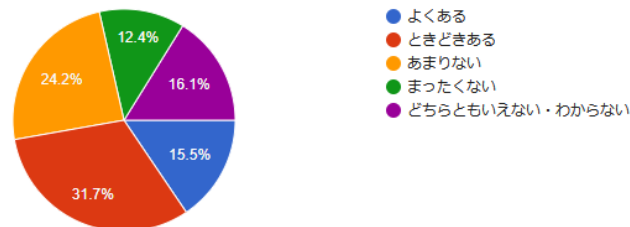
十分に仕事ができる状況を100%とした場合、あなたの介護期の仕事の進み具合はどの程度ですか。

159 件の回答



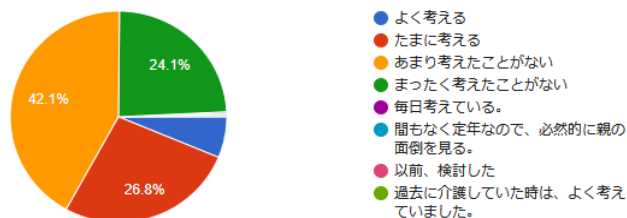
介護と仕事を両立する上で困難を感じることはありますか。

161 件の回答

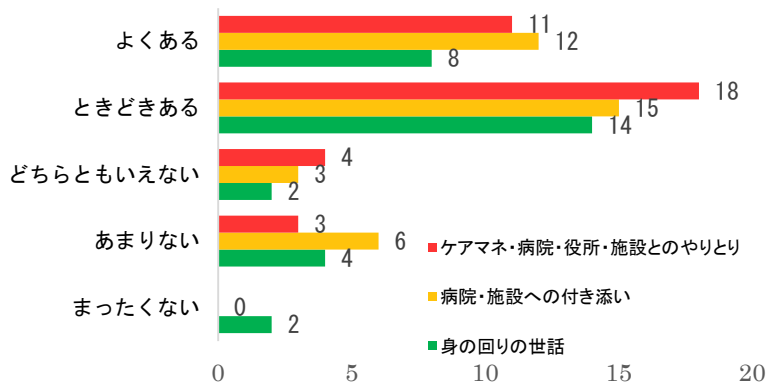


あなたは介護のためにご自身が離職する可能性を考えたことがありますか。

527 件の回答



(自分が介護を担当していると答えた方のみ)  
介護離職を考えたことがありますか

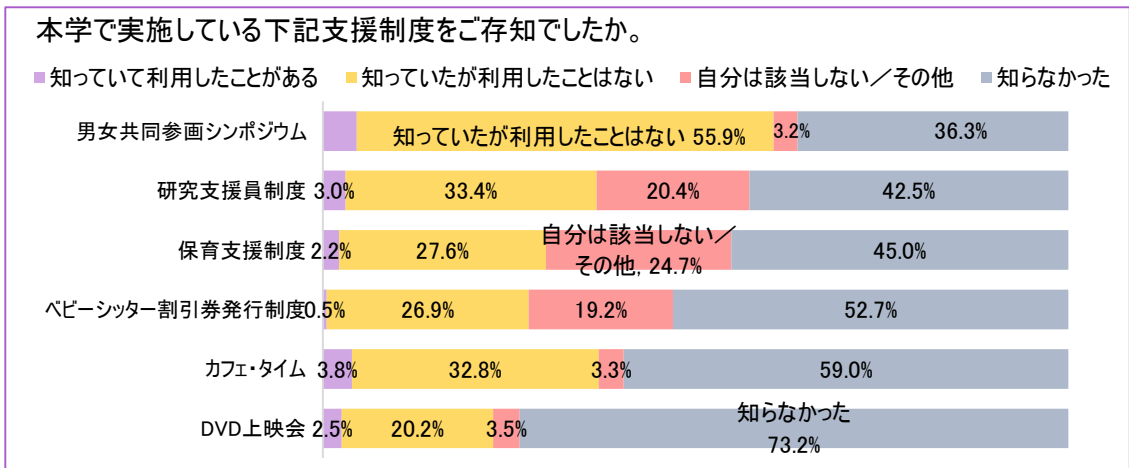




### 3. 本学支援制度と職場環境について

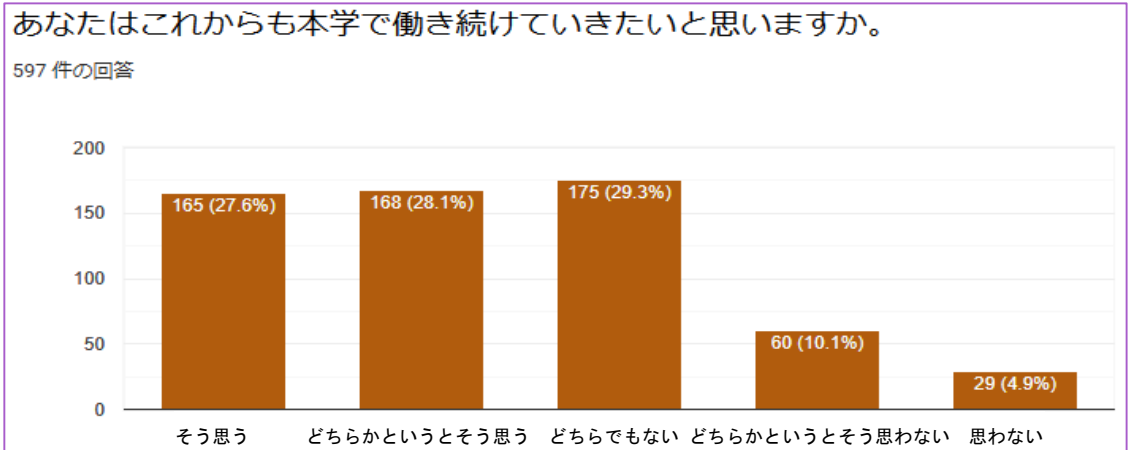
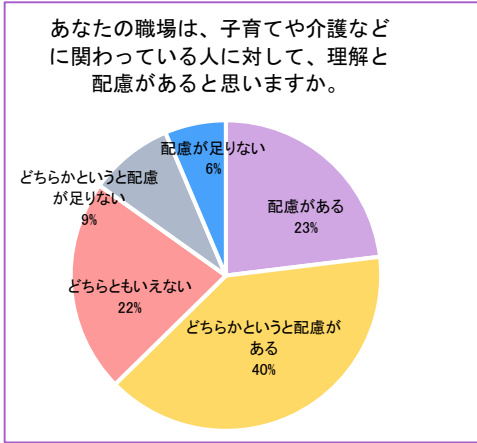
#### ①本学における両立支援取組について

女性医師・研究者支援センターが実施している各種取組の認知度・参加経験について尋ねた質問の回答は、下記の通りとなった。最も認知度が多い男女共同参画シンポジウムは約 6 割の回答者が「知っている」ものの、その多くが「知っているが参加したことはない」(55.9%) となっており、男女誰でも参加可能なプログラムであっても参加率が低いことについては、検討・改善の余地があるものとする。



#### ②職場環境について

所属する職場は、子育てや介護などに関わっている人に対して理解と配慮があるかについて尋ねた質問では、多いものから「どちらかという配慮がある」「配慮がある」「配慮が足りない」「どちらともいえない」「どちらかという配慮が足りない」「配慮が足りない」の順となった。続いて、これからも本学で働き続けたいと思うかの問いには、「そう思う」「どちらかというと思う」が 55.8%、「どちらかというと思わない」「思わない」が 15%、「どちらでもない」が 29.3%であった。



### ③男女共同参画社会の実現に向けて

「男女ともに長く働き続けていくために必要と思うもの」の問いに対しての回答は以下の通り、柔軟な勤務体制の構築、周囲（上司・同僚・部下）の理解、代替要員の配置への希望が多かった。また、次の質問で、現状よりも改善・強化してほしいものについて尋ねたところ、回答が多いものから順に周囲の理解、柔軟な勤務体制の構築、職場でのコミュニケーション、代替要員の配置と続いた。

